

山蔭神祇道

一山蔭神祇道は天見屋根命伝來神事を神祇道の宗源として藤原中臣占部(吉田萩原)安部(土御門)の諸神道と陰陽の神秘奥秘儀伝を始祖山蔭負衡卿集統合を成して神祇道として神靈齋と別に放伝す即ち教義教道にして祀祭行修神教行道是なり

神事宗源天見屋根命の後裔である藤原氏中臣氏は古くに及ばず庶流占部氏の吉田萩原家の神祇道の奥秘を極められた。また神祇管領として裁許状与をゆるされ唯宗源神道を創設した吉田兼俱卿以來の吉田神道の宗源が萩原家を通じ負衡卿即ち山蔭神祇道に伝えられた経緯は以下の如くである。從三位神祇大副兼俱卿玄孫にて兼俱卿に勝ると稱され又兼俱卿の他に只一人唯神道大家といはれた從三位神祇大副兼見卿は後土御門天皇の文明十六年吉田兼俱卿が吉田神社に齋場所大元宮を奏請の上造営遷座後後陽成天皇の天正十一年に勅命によりて八神殿を社内後方に奉遷して鎮魂祭等々奉仕、更に慶長十四年勅を奉し神祇官代として伊勢例幣使の儀礼を修める等神祇道家として偉大であつた。後ち家伝家学を嫡男正四位兼治卿に伝授するが兼見卿は家伝だけにとどまらず更に研修を重ね神理を求めて神奥神秘会得されし事多くなりよつて兼治男兼從卿を養子とほし兼見卿が会得せし全てのものを伝授する。のち兼從卿は神祇管領となり裁許状与を許され又豊臣秀吉公の外戚であるため豊國社司をとめ萩原家を創立する。

吉田家は弟兼英卿に襲名せざるも唯宗源神道の宗源は兼從卿が継承していたので弟兼英卿及びその子從五位神祇少副兼起卿(嫡子正三位兼敬卿は幼少にして父を喪ひ兼從卿門人吉川惟足に従ひて家学を享け継承する)に家伝唯神道を伝授するも兼從卿は伝來の神祇宗源秘儀は萩原家に継伝承されるが兼從卿より四代を経て負幹卿(その子負衡卿へと伝承された。負衡卿は幼少より神靈示を給わるまた家伝の神祇道はもとより古來より伝承されし神事の秘奥を極め國典國學に通達し、天見屋根命齋神靈継伝されし靈齋の靈伝授を給わる 依之靈齋中興の祖藤原山蔭卿の御名を戴き山蔭家を創設する

占部吉田萩原家において伝承されて来た宗源神祇(儀)も山蔭神祇道の継承神事の一として伝承され以後山蔭負衡靈脈に継伝される。

山蔭神祇道系譜

